

A区分・C区分共通

No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

## 芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ にんぎょうげきだんくらるて 有限会社 人形劇団クラルテ	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	取締役 奥洞昇	/	
制作団体所在地	〒 559-0015 最寄り駅(バス停) 住之江公園駅 大阪府大阪市住之江区南加賀屋3-1-7		
電話番号	06-6685-5601		
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだんくらるて 人形劇団クラルテ	団体ウェブサイトURL http://www.clarte-net.co.jp	
代表者職・氏名	代表 鶴巻 靖子	/	
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ 最寄り駅(バス停) 制作団体に同じ 制作団体に同じ		
制作団体 設立年月	1964年7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	取締役 奥洞昇	団体構成員:31名(制作班8 事務班4 公演班19) 加入条件:劇団役員が面接で決める。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	松澤 美保
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	室田 美幸
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	office@clarte-net.co.jp		

制作団体沿革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1948年人形劇団クラルテ創立以降、全国で人形劇の上演・普及活動を行う</li> <li>・1964年に法人格取得</li> <li>・1982年大阪市住之江区(現住所)にアトリエ竣工</li> <li>・2010年神戸事務所(兵庫県神戸市)設置</li> <li>・2016年一般社団法人人形劇団クラルテ設立</li> </ul>				
学校等における公演実績	<p>1956年『三匹の子豚』公演以来、毎年小学校公演実績あり</p> <p>(直近)</p> <p>2016年度『あらしのよるに』35公演、『サーカスのライオン』14公演、他2公演</p> <p>2017年度『あらしのよるに』9公演、『いえでででんしゃ』17公演、他1公演</p> <p>2018年度『あらしのよるに』15公演、『いえでででんしゃ』12公演、中高一貫校『ハムレット』1公演、他2公演</p> <p>2019年度『あらしのよるに』14公演、『いえでででんしゃ』4公演、『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、他1公演</p> <p>2020年度『あらしのよるに』3公演、『いえでででんしゃ』2公演、『トクントクンーいのちの旅ー』16公演</p> <p>2021年度『あらしのよるに』3公演、『トクントクンーいのちの旅ー』4公演、他2公演</p> <p>2022年度『あらしのよるに』18公演、『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、他1公演</p>				
特別支援学校等における公演実績	<p>2014年度5校(うち3校は本事業にて『あらしのよるに』山口県立山口総合支援学校、広島県立庄原特別支援学校、鳥取県立米子養護学校)</p> <p>『サーカスのライオン』大阪府立西淀川特別支援学校、奈良県立大淀町養護学校</p> <p>2015年度1校(本事業にて『あらしのよるに』宮崎県立児湯るびなす支援学校)</p> <p>2016年度1校 京都府立丹波支援学校亀岡分校『三びきのこぶた』他</p> <p>2017年度3校(うち1校は本事業にて『あらしのよるに』兵庫県立赤穂特別支援学校)吹田市特別支援学校『あらしのよるに』、丹波篠山市立篠山養護学校『三びきのこぶた』他</p> <p>2018年度3校(うち1校は本事業にて『あらしのよるに』福岡県立太宰府特別支援学校)篠山養護学校『ゆらゆらばしのうで』他、大阪府立中津支援学校『うさぎのおうち』他</p> <p>2019年度1校 篠山養護学校『赤いめんどり』他</p> <p>2020年度なし</p> <p>2021年度1校(本事業にて『あらしのよるに』佐賀県立中原支援学校)</p> <p>2022年度1校 大阪府立堺支援学校大手前分校『さるとんかにとん』</p>				
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有			
	※公開資料有の場合URL				
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 人形劇団クラルテ】

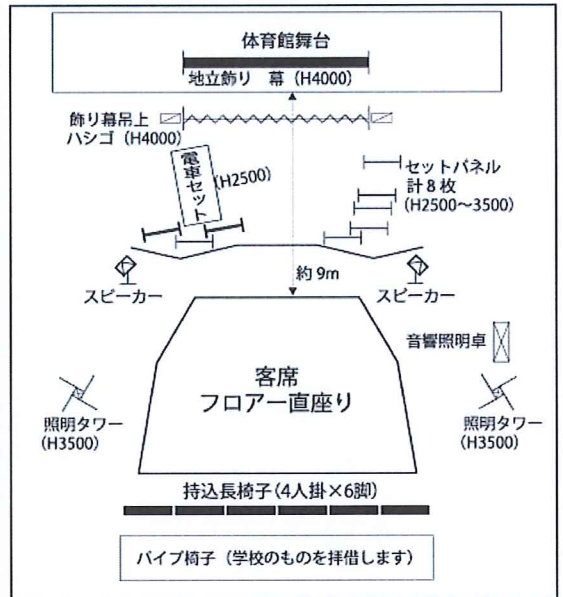
対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生				
企画名	人形劇『いえでででんしゃ』				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『いえでででんしゃ』 原作/あさのあつこ(新日本出版社刊) 脚色/松本則子 演出/宮本敦 人形美術/永島梨枝子 舞台美術/西島加寿子 音楽/茨木新平 照明/永山康英 公演時間 65 分				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名 原作:あさのあつこ	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	
演目概要	<p>”いえでででんしゃ”は 子ども達の葛藤する思いを乗せて走ります——。</p> <p>家出した子どもを乗せて走る“いえでででんしゃ”は空を飛び、深海まで潜り、乗客は人間の子もだけでなく、鳥や深海魚の子もも乗ってきます。広い世界を描き、魅力的なキャラクターたちが登場し、家出してから帰るまでの心の流れを綴ります。</p> <p>《あらすじ》</p> <p>「花びんを割ったのは私じゃない！」無実の罪で母親に叱られたさくら子は家出をします。駅で電車を待っていると不思議な電車が目の前に現れます。それは家出をした子しか乗れない不思議な電車“いえでででんしゃ”です。中にはへんな車掌さん。さくら子が乗ると後から隣のクラスのけいすけくんが飛び乗ってきました。“いえでででんしゃ”は空を飛び、海に潜り、どんどん進んでいきます。途中、鷹の仲間のチョウゲンボウや深海魚のリュウグウノツカイの子どもが電車に乗ってきました。ふたりとも、親に兄弟と比較されたり、自分の気持ちを分かってもらえず家出をしてきたと言うのです。車掌さんは、「みんなが行きたいところへ連れて行ってあげる」と言うけれど、みんなが本当に行きたい所ってどこ？疑問を持った瞬間、“いえでででんしゃ”はスピードダウン。子どもたちがそれぞれの思いから家に帰ることを決めた時、今度はみんなの家に向かって“いえでででんしゃ”は走り出します。</p>				
演目選択理由	<p>親に言いたいことが言えなかったり、自分の気持ちが相手に伝わらず、悔しい、悲しい思いをしたことがない子どもはいないでしょう。そんな子ども達の葛藤する思いを乗せて走る“いえでででんしゃ”の中では、鳥でも魚でも人間と同じように話す事が出来ます。電車に乗り合わせた子どもたちが、はじめは大人に怒っているものの、語り合い、共感し、協力し合ううちに、自分たちが本当に欲していたものに気づきます。誰にどう認めて欲しかったのか、理解して欲しかったのか等、そして自分の場所でそれを獲得するために家に帰っていきます。自分を見つけ、自分以外のものを受けとめる体験をする小学3年。自我が伸びる時と、その時を通過した子ども達に、本作品を通し、自分の意思を相手に伝えること、相手と分かち合うことの大切さと喜びに共感し、一歩を踏み出す勇気や新たな問題に立ち向かう力を育てたい。また、物語の展開の面白さやユニークな登場人物たちから想像力を膨らませ、心を解放した楽しい時間を持って欲しいと思います。</p> <p>本作品は平成23年度トップレベルの舞台芸術創造事業助成金の助成を受け制作・上演し、その後、小学校公演作品として改変し、全国の小学校で上演実績があり好評をいただいていることも本事業への演目の選択理由です。</p>				
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>舞台は体育館のフロアに組み、客席から間近なところで上演します。</p> <p>児童との共演では「生き物チーム」と「電車チーム」に分かれ、個々で表現したい児童は「生き物チーム」、集団で表現したい児童は「電車チーム」として、劇団員と一緒に1場面を作り共演します。</p> <p>劇の冒頭、舞台前に「生き物チーム」の児童(約10名)が事前ワークで各々のアイデアで創作した生き物の人形を操作しながら登場します。それらは“いえで”をした子どもの生き物たちで、各々がその生き物の憤りを人形の声や動きで表現します。そこへ客席後方から「電車チーム」の児童(約20名)が列になって身体で創る「いえでででんしゃ」が登場します。電車をイメージした身体の動きや擬音等は事前ワークで児童のアイデアにより創作します。電車は舞台前までやって来て停車、待っていた生き物を乗せて出発。そのまま出演児童たちの列(いえでででんしゃ)が客席に着き、着座したところで人形劇の本編が始まります。</p>				
出演者	松原康弘、梶川唱太、宮本敦、白國亜衣、徳永颯希、松村瑞姫 計6名				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 6 名 スタッフ: 2 名 合計: 8 名	運搬	積載量: 2 t 車長: 6 m 台数: 2 台※1台はワゴン車		



本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		有		前日仕込み所要時間		2.5	時間程度
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	8時	仕込み8時～10時半 (共演リハーサル11時～ 11時45分)		13時～ 14時15分	0分	14時30分～ 16時	16時30分	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。								

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月
	7日	0日	0日	0日	15日
	11月	12月	1月	計	45日
	10日	8日	5日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	30名程度(学校規模により人数増対応)
		鑑賞人数目安	400名



舞台・客席平面図(椅子席は人数により増減)

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

(写真・上) 体育館フロアに舞台を設置した状態

(写真・下) 客席に児童が座った状態(暗幕は閉めます。換気のため窓のみ開けることも可能)

- ・体育館ステージ上も使用します。※ステージが無い場合、長机4脚で対応可能。
- ・舞台設置に必要な面積 横15メートル 奥行き8メートル 高さ5メートル
- ・電源容量(主幹ブレーカー容量) 60A以上 単層三線※分電盤を使用します。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

(舞台写真)



【公演団体名 人形劇団クラルテ 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	60名程度まで (学校規模により人数増対応)
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>90分(途中で休憩時間をはさみます)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体と心をほぐす(ウォーミングアップ)…自分の身体や相手を意識しながら想像力を広げるゲーム等を通して、身体と心を解放させます。そしてリズム遊びとリズムに合わせての身体遊びから、本番の集団の身体で創る“いえでででんしゃ”表現に繋がります。</li> <li>2. 人形を創作し遣う(導入)…紙袋や色画用紙等を利用して各々のアイデアによる生き物の人形を創作し、また自作の人形を遣う体験をする事で、人形劇表現の面白さに触れます。</li> <li>3. 作品テーマに触れる(展開)…自分の創作した生き物が「もしも“いえで”をするなら…？」の問いかけから作品世界への想像を広げます。創作した生き物の“いえで”をする理由やその時の持ち物や気持ちを想像し、人形を遣い発表し合う事から、本番の“生き物”の人形の表現に繋がります。</li> </ol> <p>本番で実際に遣う人形も見ていただきながら作品説明をすることで、本番に対する期待も高めていただきます。 最後に振り返りとして、児童・生徒から質問や感想を聞いていきます。</p> <p>※この他に、公演当日の本番前の時間で共演する児童・生徒とのリハーサル(45分)を行います。</p> <p>本番終演後に、共演した児童たちとの交流タイム(人形や舞台を近くで見えていただき、記念写真など)も実施可能です。(5～10分程度)</p>		
ワークショップの ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作・創造過程において、自己発見・自己表現や他者理解の活動をベースに、コミュニケーション力を伸ばし、劇の楽しさを感じてもらう。</li> <li>・集中力、協調性を養い、全員で一つのものを作り上げる演劇の醍醐味を味わってもらう。</li> <li>・自分で工夫して作った人形は愛着を持ち感情移入しやすくなり、劇体験が取り組みやすくなる。</li> <li>・人形を遣うことで、自己を解放しやすく、また、客観的に物事を考え意見を言いやすい状態となり、表現することや劇世界の楽しさをより感じるができる。</li> <li>・人の気持ちを想像することで、人に対する思いやりの心を育む。</li> </ul>		
その他ワークショップに 関する特記事項等	<p>特別支援学校でのワークショップは、事前に先生と相談し、必要な場合は学校ごとに特別メニューで対応させていただきます。本番前に登場する人形を間近で見、触れてもらい、作品の世界により入り易くする。ワークショップの内容や進行について児童が見通しを持てるように流れを紙に書くなどをして分かりやすく説明するといった対応などをさせていただきます。</p> <p>ワークショップは基本的には体育館で実施します。時期や人数によっては、多目的室などでも対応させていただきます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

人形劇団クラルテ

】

## ①本事業に対する取り組み姿勢

文化・芸術は基より、自然や遊びという日常の中での実体験がますます少なくなっている子ども時代に、本物の舞台芸術に出会わせたいと強く願う。日常生活が豊かな自然や人間関係の中で生まれている子ども達に向けて公演した時には同じ作品が驚くほど輝きを増す体験を何度もしてきた。何もしなければ、これからの日本の未来を担う子ども達は日常体験も芸術体験も乏しく、想像力・創造力・共感力を育むことなく大人になる事への危機感を持っている。

本事業は、鑑賞するだけではなく、事前に人形劇の世界に触れ、物語の登場人物の気持ちを想像する体験をすることで、作品や人形劇そのものへの理解を深め、より主体的に舞台芸術と関わることで、想像する力を育み、自らが表現する事、まわりと心を合わせ一つの舞台を作り上げることなど、多くの学びを受け取ってもらえる機会となることを願って取り組んでいます。

また、子ども達には目の前で生身の劇団員達が汗を流して演じていることや、舞台も人形もすべて人の手によって作られていることを知り、感じる、リアルな体験となってもらいたいので、子どもたちとの交流の時間もできる限り持つようにしています。

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

・ワークショップ・本番とも、世界でひとつだけの自分で作った人形を遣うことで、人形に感情移入したり、イメージを膨らませやすくなります。

・児童が製作する人形は、学校側の負担にならないよう、主な材料である紙袋は劇団側で準備をし、その他画用紙などの身近な材料を使い、簡単に作ることができ、個々で創意工夫を楽しめるものにします。

・人形はワークショップ時に完成しなくても、本番までの間にそれぞれ好きなように色を塗ったり装飾してもらうように促すことで人形により愛着がわき、本番までのモチベーションを高めることができます。

・舞台エリアの関係上、本番の出演人数には限りがあるので、学校によっては一部の児童のみの出演となります。出演しない児童や電車チームとなる児童もワークショップでは一人一体ずつ人形を製作し、人形による表現を体験していただきます。そして本番当日も出演する児童と共にリハーサルから参加し、客席からはどのよう見えているか、動きやセリフなどへのアドバイスをする役目として参加してもらいます。そのことで、本番に向けて全員で劇を作っているという意識を持ち、人形劇全体への興味・理解も深まります。

・児童の出演は公演の冒頭部分なので、出演後は観客として落ち着いて公演を楽しんでいただけます。また、劇に関わったことでより深く集中して観ることができます。

・打合せ時に各学校の意見や要望を聞き、ワークショップの基本プランを柔軟に、より発展させられるよう、各校ごとに対応させていただきたいと思っております。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫